

早生穂肥編

1 生育概況と当面の管理

金沢地方気象台によると、分けつ期に当たる6月上旬の平均気温は平年より低く推移し、七尾市で17.1℃(-2.1℃)となった。このため、生育の速度は鈍化し、早生品種、コシヒカリともに草丈は平年より短く、コシヒカリでは茎数が平年よりやや少ない傾向となっている。葉数の展開から推測される生育の遅速は、平年に比べ、コシヒカリで1~2日遅く、ゆめみづほで平年並~1日遅い状況となっている。さらに、一部のほ場では過剰分けつの発生や根の傷みによる下葉の黄化が見られるため、早生品種では6月末まで、コシヒカリでは7月10日頃まで、引き続き、中干しを継続し、稲体の健全化を図るとともに、今後は①「適切な穂肥の施用」、②「2回防除の徹底」、③「出穂まで1か月間の飽水管理」に努める。

【参考 生育調査結果(6月19日現在)】

| 品種 | 調査場所 | 田植日 | 草丈 (cm) | | | 株当たり茎数 (本/株) | | | 葉 齢 (枚) | | |
|--------|----------|-------|---------|-----|-----|--------------|-----|-----|---------|-----|-----|
| | | | 本年 | 前年% | 平年% | 本年 | 前年% | 平年% | 本年 | 前年% | 平年% |
| コシヒカリ | 羽咋市立開 | 4月30日 | 35.5 | 77 | 83 | 29.9 | 107 | 103 | 8.3 | 86 | 87 |
| | 志賀町福野 | 5月4日 | 32.9 | 77 | 84 | 27.3 | 104 | 122 | 9.1 | 96 | 99 |
| | 志賀町八幡座主 | 4月29日 | 31.2 | 72 | 84 | 20.3 | 71 | 93 | 8.6 | 86 | 94 |
| | 中能登町小竹 | 5月5日 | 31.9 | 74 | 84 | 16.8 | 83 | 80 | 8.7 | 93 | 95 |
| | 七尾市中島町河崎 | 5月2日 | 28.6 | 66 | 79 | 15.6 | 48 | 73 | 8.2 | 84 | 91 |
| 平均 | | | 32.0 | 73 | 83 | 22.0 | 81 | 95 | 8.6 | 89 | 93 |
| ゆめみづほ | 志賀町福野 | 5月4日 | 31.9 | 87 | 90 | 27.6 | 127 | 120 | 9.8 | 97 | 103 |
| | 宝達志水町小川 | 5月1日 | 33.1 | 79 | 88 | 28.0 | 88 | 90 | 9.1 | 90 | 89 |
| | 七尾市中島町河崎 | 5月2日 | 31.0 | 77 | 95 | 23.8 | 77 | 111 | 9.4 | 89 | 99 |
| | 中能登町新庄 | 5月5日 | 34.6 | 88 | 93 | 25.2 | 86 | 111 | 9.6 | 92 | 100 |
| 平均 | | | 32.6 | 83 | 91 | 26.1 | 92 | 107 | 9.5 | 92 | 97 |
| ハナエチゼン | 中能登町川田 | 5月10日 | 31.1 | 74 | 85 | 24.9 | 79 | 116 | 9.6 | 91 | 101 |
| ほほほの穂 | 羽咋市立開 | 4月28日 | 32.6 | 71 | 83 | 37.1 | 99 | 124 | 9.7 | 95 | 99 |
| ひやくまん穀 | 羽咋市千路 | 5月9日 | 31.0 | - | - | 9.1 | - | - | 8.0 | - | - |
| | 七尾市中島町笠師 | 5月17日 | 25.9 | - | - | 8.4 | - | - | 5.8 | - | - |
| 平均 | | | 28.4 | - | - | 8.7 | - | - | 6.9 | - | - |

【今回のポイント その①】

中干し後から出穂までの約1か月間の「飽水管理」の徹底

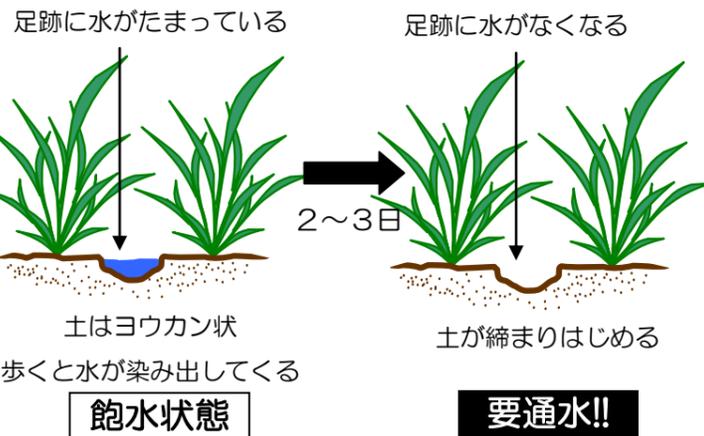
2 中干し終了後の水管理

登熟期間の水稻の活力を維持するためには根を健全に保つことが重要です。根の活力維持には、適期の中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

(1) 飽水管理の徹底

幼穂形成期(早生6月末、中生7月上旬)以降は新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2~3日間隔を目安に通水し、飽水状態(右図)を保ち、根の活力維持を図りましょう。

- 1 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう(水田内の温度を上げない)。
- 2 向こう1か月の予報によると北陸地方の降水量は平年並から少ないとされているため、集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。



【飽水管理とは・・・】
ほ場表面に水はないが、足を踏み入ると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理

【今回のポイント その②】

穂肥の「適期」「適量」施用で未熟粒の発生を防止!!

2. 出穂予測と穂肥時期の目安

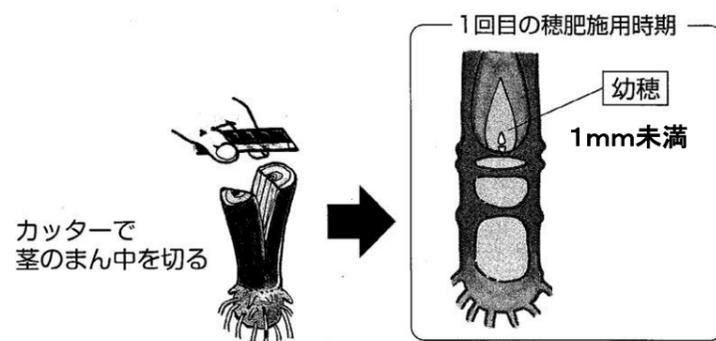
- ・分施肥系では葉色が濃い場合や過剰生育で1回目の追肥が出来ない場合でも、稲体の消耗を防ぐために、2回目の追肥は必ず施用して下さい(【注意】追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと)。
- ・やや生育過剰なほ場、葉色の濃いほ場では1回目の施用時期は遅らせず、量を減らして施用する。

次ページに続きます。

・穂肥一発体系では分施体系の1回目の穂肥時期よりも2日程度早めに施肥する。

| 品 種 名 | 回数 | 肥料名 | 時期（出穂前日数） | 施用量 | 備 考 |
|---------------------------|-----|---------------------------|--------------|-------------|---|
| ハナエチゼン 7月20日頃 (平年並) | 1回目 | BB 秋ゆたか | 6月28日頃(23日前) | 15~20kg/10a | 1回目の穂肥施用時は 幼穂長 1mm 葉色板 4.0 を基準とする。 葉色が濃い場合（葉色板 4.0 以上） は施用量を3割程度減じて施用す る。 地力がなく秋落ちしやすい場合は、 BBLP 秋ゆたかを施用する |
| | | BBLP 秋ゆたか | 6月26日頃(25日前) | 35~40kg/10a | |
| | 2回目 | BB 秋ゆたか | 7月11日頃(10日前) | 20kg/10a | |
| | | 1回目にBBLP 秋ゆたか施用の場合、2回目は不要 | | | |
| ゆめみづほ 7月23日頃 (平年並) | 1回目 | BB 秋ゆたか | 7月 1日頃(23日前) | 15kg/10a | |
| | | BBLP 秋ゆたか | 6月29日頃(25日前) | 30~35kg/10a | |
| | 2回目 | BB 秋ゆたか | 7月14日頃(10日前) | 20kg/10a | |
| | | 1回目にBBLP 秋ゆたか施用の場合、2回目は不要 | | | |

※基肥一発肥料（BB スリム早生一発くん等）を施用したほ場では、原則、穂肥（上乗せ追肥）を施用しないこと



〔今回のポイント その③〕

出穂後の2回防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

6月15日に県から「斑点米カメムシ類の多発注意報」が発令されました。雑草地におけるすくい取り調査による成虫数は10.1頭（平年値3.3頭）と平年の3.1倍と多く、特に、飛翔性カメムシ類は平年の3.3倍と多く発生しています。斑点米カメムシによる品質低下を防ぐため、①7月10日頃までの仕上げ除草、②2回防除の徹底を必ず実施して下さい。

3. 斑点米の発生防止対策

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで畦畔や農道等の一斉仕上げ除草を実施しましょう。

ただし、7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、仕上げ防除直前に行ってください。

基幹防除では、出穂期の7日後（穂揃期）と、14日後（傾穂期）の2回防除が斑点米の被害防止に重要なので、必ず実施しましょう（出穂期とは、ほ場全体の40~50%が出穂した時期をいいます）。



一斉草刈り強化デー

7月3日(月)~10日(月)

(1) 基幹防除（粉剤体系）

○成分 は化学合成農薬成分数

| | 病 害 虫 名 | 薬 剤 名 | 散布量 (10a) | 散 布 時 期 | 摘 要 |
|-----|----------------|----------------------------------|-----------|-----------|--------------------|
| 1回目 | いもち病、紋枯病、カメムシ類 | ビームトレモンセレン粉剤 DL 3成分 | 3~4kg | 7月19~21日頃 | 出穂直前防除 |
| 2回目 | いもち病、カメムシ類 | ラブサイドキラップ粉剤 DL 2成分 | 3~4kg | 7月27~30日頃 | 出穂7日後頃 穂揃期 |
| 3回目 | カメムシ類 | キラップ粉剤 DL 1成分 | 3~4kg | 8月3~6日頃 | 出穂14日後頃 傾穂期 |

※ 粉剤は防除効果を高めるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3~4時間は降雨がない日に散布する。

(2) 基幹防除（粒剤体系）

粒剤防除は一人で散布できることや、湛水状態で散布するので、粉剤のような飛散（ドリフト）が少ないため、市街地等でも散布が可能なメリットがあります。

| | 病 害 虫 名 | 薬 剤 名 | 散布量 (10a) | 摘 要 |
|-----|----------------|-------------------------------|-----------|---------------------------------------|
| 1回目 | いもち病、紋枯病、カメムシ類 | イモチエースキラップ粒剤 2成分 | 3kg | 出穂の10~12日前 に散布 (散布後4~5日の湛水) |
| 2回目 | カメムシ類 | キラップ粒剤 1成分 | 3kg | 出穂7日後頃 穂揃期に散布 (散布後4~5日の湛水) |

次ページに続きます。

(3) 基幹防除（液剤体系）

| | 病虫害名 | 薬剤名 | 散布量 (10a) | 散布時期 | 摘要 |
|-----|----------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------|---------------|
| 1回目 | いもち病、紋枯病、カメムシ類 | ピームエイトトレボンゾル + バリダシン液剤5 | 2成分 0成分 650倍・1000倍・100L | 7月19～21日頃 | 出穂直前防除 |
| 2回目 | カメムシ類 | キラップフロアブル | 1成分 1000～2000倍・60～200L | 7月27～30日頃 | 出穂7～10日後（穂揃期） |

4. 随時防除の実施

| 病虫害名 | 薬剤名 | 散布量 (10a) | 摘要 |
|---------------|----------------|-----------|--|
| 稲こうじ病 墨黒穂病 | 撒粉ボルドー粉剤DL 0成分 | 3～4kg | 【予防剤】常発地では出穂10～14日前に散布（出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しない） |

※ 撒粉ボルドー粉剤DLは、化学合成農薬成分にカウントされません。



葉いもち



稲こうじ病



トゲシラホシカメムシ



アカスジカスミカメ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

【農薬の適正な使用について】ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律（農薬取締法）で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用して下さい。

5つの1か月対策のポイント

- 【1】育苗日数は、1か月以内（20～30日間）
- 【2】中干し開始は、田植え1か月後
- 【3】中干し期間は、1か月間（コシヒカリ）
- 【4】中干し後から出穂までは、約1か月間（コシヒカリ）の飽水管理
- 【5】出穂から刈り取り直前までの1か月以上は、
①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない

今回のポイント！！

